

# ハウレーカ!

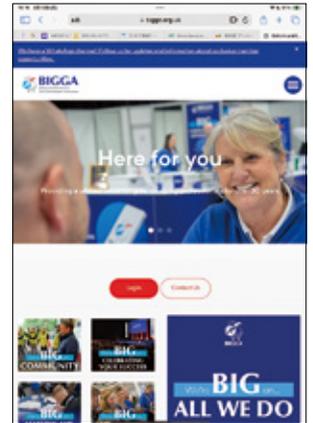
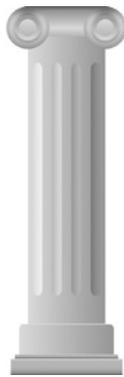
なるほど、そうか

第35回

## 英国のグリーンキーパー養成は教育制度を活用

— ゴルフ団体が共同で取り組む全体像と背景 —

喜田任紀



BIGGAは組織名にLimitedとあるように会社組織です。後述しますが、似た歴史を持つている日本では残念ながら組織そのものが解散したままです。そろそろ、改めて全国組織をという動きが生まれないかね……。

本題のBIGGAのグリーン

キーパーの教育システムですが、BIGGAは、「グリーンキーパーや他のコース管理者が専門のスキルと知識を深め、向上させるために役立つ様々な教育やトレーニングの機会を提供しています。これには正式な資格や証明書、ワークショップ、セミナー、オンライントレーニングが含まれます」としています。

教育以外にもいろいろな取り組みがされているわけですが、BIGGAの会員は、入会すると自動的にCPD (Continuing Professional Development、継続的専門教育) というグリーンキーパーの専門知識とスキルを維持し、向上させるための教育プログラムに登録されます。

このプログラムの主な特徴をまとめると、

- ・ 専門性・知識とスキルを維持し、改善し、広げることで専門性を保つ。
- ・ キャリア開発・必要な個人的な資質を開発することで、キャリアを成功させる。

雇用主にとっては専門スタッフの育成・熟練度向上、最新情報の取得、効率アップなどのメリットが得られるとされています。

CPDに関しては、BIGGAが2022年に実施したグリーンキーパーアンケートでは、次頁の図にあるように3割ほどがCPDを受講中 (CPD Active) で、1割強のグリーンキーパーは受講済 (CPD Approved) だそうです (集計結果だけの公開で数値が表記されていなかったことから紹介はしなかった)。6割近いグリーンキーパーは継続教育を受けていないようです。

### 専門教育機関GTC

グリーンキーパーとしての教育ですが、BIGGAはGTC

### BIGGAの取り組み

00人と公表されています。

よびヨーロッパを中心に約55

BIGGAの会員数は、英国お

A)の取り組みを紹介します。

Association Limited、BIGG

International Golf Greenkeepers

キーパー協会 (The British and

て、まず英国・国際グリーン

は、記事で紹介することし

と関係していますが、その内容

です。英国の教育制度そのもの

たコース管理者育成プログラム

国は教育制度そのものを活用し

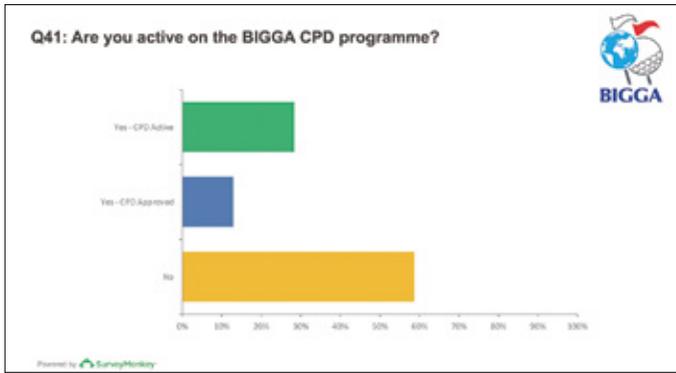
調べていて驚いたのですが、英

の取り組みについて紹介します。

紹介しました。本号では英国

いるコース管理者の育成につい

て紹介しました。本号では英国



(The Greenkeepers Training Committee) という専門機関に委嘱しています。このGTCは、英国

のゴルフクラブ（イングランド、スコットランド、ウェールズの各ゴルフ協会）とBIGGAが設立したアプレンティスシップ（Apprenticeship、後述）として認定された機関です。

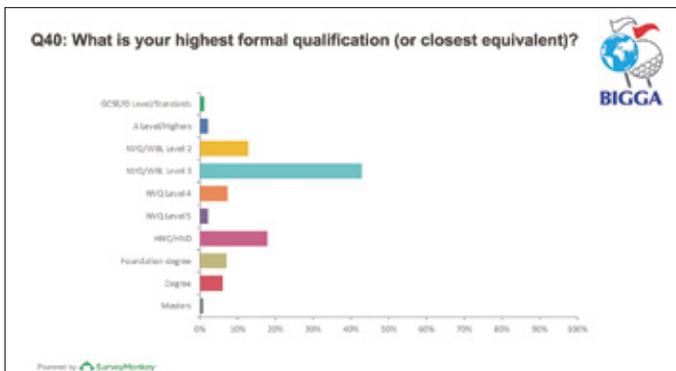
GTCは、トレーニング修了者をコース管理技術者として認証するわけです。

アプレンティスシップ制度は、学生が賃金を得ながら、仕事に必要なスキルを習得するためのトレーニングを受けられる制度です。この制度は、大学の学費上昇や雇用市場の不安定化が進む英国において、近年改めて注目されているそうです。また、中等教育修了相当から学位レベルまでの多様なスキームが設けられており、学生は自分のキャリア目標や学習スタイルに合わせて、最適な教育パスを選択することが可能とのことです。GTCは、ゴルフコースに働くスタッフもアプレンティスシップ制度の下で教育を受けられるわけです。

このように英国でのグリーンキーパー育成（教育）は、国の教育制度の中で取り組まれています。英国の教育制度は日本と少し異なりますから、教育制度への理解が必要になります。そこで、同じアンケートで資格について質問していますのでその結果をまず紹介します。

聞いている資格は、最終學歷のようです。この内容については門外漢なので、ChatGPTに調べてもらいました。英国のグリーンキーパーの資格制度の一端を担っている制度でもあり、少しお付き合いください。登場する資格は以下の通りです。

1. GCSE/O Level/Standards : 英国の中等教育の資格で、通常は14〜16歳の間に取得します。
2. A Level/Highers : 英国の高等教育資格で、大学進学資格として認識されています。
3. NVQ/WBL Level 2 : NVQ (National Vocational Qualifications) 職業資格で、特定の職務に必要な知識とスキルを学習者に提供することを目的としています。



4. NVQ/WBL Level 3 : 個人の教育過程において重要なマイルストーンであり、さらなる学習や就職のための強固な基盤を提供します。
5. NVQ Level 4 : 特定の職務に必要な知識とスキルを学習者に提供することを目的とした職業資格で、学士課程の4年目に相当します。
6. NVQ Level 5 : 半熟練労働

者から知的専門職までの5水準のいずれかに位置づけられています。

7. HNC/HND : HNC (Higher National Certificate) ~HND (Higher National Diploma) は、特定の職業分野での実践的なスキルと理論的な知識を証明する資格です。

8. Foundation degree : 学士号コースの最初の2年間と同等のレベルの学位とみなされます。コース修了後、大学学士課程の3年目に編入が可能です。

9. Degree : 通常3年間(コースによっては4年間)の全日制のコースを修了して取得する学士号を指します。

10. Masters : 特定科目に関する知識を深めることを目的とした大学院の修士号コースで、通常1年間で修了します。

次に英国の教育制度です。

1. Primary Education (初等教育) : 5歳~11歳までの子供が対象で、日本の小学校に相当します。

2. Secondary Education (中等教育) : 11歳~16歳までの生徒



が対象で、日本の中学校に相当します。この段階で、先のGCSEという義務教育修了試験を受けます。

3. Further Education (継続教育) : 16歳~18歳までの生徒が対象で、日本の高校に相当します。

4. Higher Education (高等教育) : 18歳以上の生徒が対象で、日本の大学に相当します。——となっています。

グリーンキーパーの教育プログラムが関係するイギリスのアプレンティスシップ制度は、この教育制度の中で、特にFurther Education (継続教育) の段階に位置づけられます。

GTCが提供するグリーンキーパーの教育プログラムはレベ

ル2として紹介されています。

プログラムの概要は、ゴルフコースのグリーンキーパーとしての専門知識とスキルを維持し、向上させるためのプログラムで、日本芝草研究開発機構のカリキュラムと似た内容のようですが、時代に合わせて環境保護やSDGsといった情報のアップデートがされています。

レベル2のプログラムは、BIGGAの教育指針に準拠していますから、

・専門性 : 知識とスキルを維持し、改善し、広げることで専門性を保つ。

・キャリア開発 : 必要な個人的な資質を開発することで、キャリアを成功させる——と同一の内容となっています。

先ほど触れましたが、BIGGAの全メンバーは自動的にBIGGA・CPDプログラムに登録され、CPDプログラムは3年間のプログラムで、60クレジット(1クレジット1時間)

を達成すると、BIGGACPD承認メンバーになります。

## GTCの歴史的経緯

英国でのグリーンキーパー教育の中核機関であるGTCの歴史的背景についてまとめました。

GTCは、英国におけるゴルフ場の管理者とグリーンキーパーの教育機関として独立した組織で、GTCの前身としてコース管理のトレーニングのために設立されました。ゴルフ・グリーンキーピング常設会議がルーツです。

GTCの資料によると、英国も、ご多分に漏れずというか、1912年から1962年までの間は、雇用主であるゴルフ場は、前任者から多くを学んだ経験豊富なスタッフ(その多くは経験や知識を共有することに消極的だったとか)頼り。コース管理に関する研修の多くは夜間に業界関係者が行うといったケースがほとんどで、60年代半ばまでは農業大学や園芸大学で正

式な教育を受ける機会もなかったようです。どこか日本の姿に重なりませんか。

60年代から70年代初頭にかけて、園芸学での教育コースが始まり、先の常設会議が結成され、この常設会議の発足により、ようやく雇用主がグリーンキーパーの訓練に関わり始めたという

ことだそうです。80年代にかけてのGTCの継続的な活動を経て、BIGGAはグリーンキーパー養成コースにGTC「認定」カレッジを指名するわけです。

BIGGAのホームページのキヤリアの項目の中に、養成コースのトレーニングプロバイダーとして、GTCが認定する教育機関を紹介しています。プロバイダーには11の農業大学やカレッジが指定されています。

運営資金としては、英国4カ国のゴルフ団体は、ゴルフファースト1人当たり2ポンドの費用負担をしており、各ゴルフ団体が負担する金額に応じた負担をR&Aは行っており、PGAヨーロッパツアーも助成金を出している

るそうです。

なお、BIGGAの理事会は、イングランドゴルフ協会 (England Golf)、スコットランドゴルフ協会 (Scottish Golf)、ウェールズゴルフ協会 (Wales Golf) およびBIGGAの代表者で構成されています。

R & A (The R&A) は、昨年、日本でセミナーを開催しましたが、ゴルフコースの管理とグリーンキーパーの育成に関して、以下のような取り組みを行っています。

- ・ 持続可能な農学サービス: Sustainable Agronomy Serviceを提供しています。このサービスは、コースメンテナン業務に対し農学的専門知識を提供し、効果的かつサステイナブルなコースメンテナンをサポートします。

- ・ 専門家チーム: 持続可能なコース管理の実践のために専門チームを有しています。このチームは、The R&Aが主催する28の世界クラスのゴルフ選手権、全英オープン、AIG全英女子

オープンなどのコースメンテナンをサポートしています。

- ・ サステイナビリティへの取り組み: 自然、コミュニティ、リソースの管理全般にわたりサステイナビリティへの取り組みを強く提唱しています。その一環として、ゴルフ施設がリソースの削減、気候変動、規制といった課題に直面する中で、プレー環境の維持・向上のため、将来を見据えて今行動することが課題と捉えています。

以上が英国におけるグリーンキーパー（コース管理者）の教育・育成プログラムの概要です。City & Guildsという世界最大手の技能認定組織と連携した国の教育制度そのものに組み込まれた仕組みであり、日本とは環境面で違いがありますが、業界としての取り組みは日本でも参考になる点が多いと思います。

※ **Apprenticeship** (アプレントイスシップ) とは、日本語では徒弟制度と訳されますが、もともと職人ギルドに起源をもっており、今日では、学校での学習

と企業での訓練を組み合わせた制度です。通常、企業と契約を結び、実際の仕事をしながら給料を得ることができる制度です。アプレントイスシップを終えると、公認の資格や証明書を受け取ることができます。

### 参考

BIGGAのホームページ: <https://www.bigga.org.uk/>

GTCのホームページ: <https://www.the-gtc.co.uk/>

GTC認定ハンドブックはCity & Guilds ([https://www.cityandguilds.com/qualifications-and-apprenticeships/land-based-services/horticulture/0143-golf-greenkeeping#tab=documents](https://www.cityandguilds.com/qualifications-and-apprenticeships/land-based-services/horticulture/)) から入手できます。

